

新井柿崎線は危険がいっぱい。歩道や防雪柵などの設置急げ 県道新井柿崎線整備促進議員連盟が県土木部長に要望書提出

県道新井柿崎線整備促進議員連盟（宮崎政国会長）は12日、新潟県土木部の美寺寿一部長に要望書を提出してきました。参加したのは宮崎会長を含め7人の市議です。上越市選出の県議も同席しました。

今回の要望は、道路・橋梁改良、歩道整備の促進、雪寒関係施設整備促進などに関連する18項目です。

議員連盟の宮崎会長が要望書を読み上げたあと、土木部の道路関係課長が一つひとつ、要望に答えました。丁寧でしたね。この中で、防雪柵設置については、大潟区米倉新田と吉川区長峰地内が一番風が強いとして、「少しでも早く、予算を多目につけて促進する。その後、南



部に進んでいきたい」と回答しました。また、歩道整備については、「県内全体で300か所要望が出されて、優先順位をつけて整備している。従って、交通安全指定道路、交通安全プログラムに載っているところが優先される。その点、踏まえた対策を」と言

われました。

じつは、今回、私たちが要望したなかには交通安全指定道路（国の補助事業である特定交通安全施設等整備事業で対策すべき道路として指定された道路）に指定されていない箇所が複数ありました。今後、新井柿崎線の整備を促進していくためには、新井柿崎線のような市民生活と産業に大きく係わる道路の予算の増額を求め、議員連盟サイドでの活動の進め方も研究する必要があります。写真は日本共産党議員団の橋本正幸議員が撮影したものです。

最大走行距離車は27万キロ

4日の上越地域消防事務組合定例議会でも要求していた資料がこのほど、届きました。1番走行距離が長い車は上越北消防署救急2号車で、走行距離は何と27万8406キロメートルで



トランペットで原発再稼働反対

12日の朝、かに池交差点でトランペットの音が鳴り響き、通行者などの関心を引きました。演奏したのは東京都板橋区在住の山内金久さん（68歳）です。山内さんは数年前、平和行進の通し行進者を務め、上越市に来たことがあります。今回は柏崎刈羽原発を再稼働させてはならないと上越市にもやってきて、「がんばろう」などの曲を演奏しました。

消防ポンプ自動車及び高規格救急自動車走行距離

（上越地域消防事務組合議会資料。平成28年10月1日現在）

	消防ポンプ自動車 （水槽付き含む）	高規格救急自動車
最大走行距離車	154,725km 高士分遣所 （平成12年1月配備）	278,406km 上越北消防署2号車 （平成17年8月配備）
最小走行距離車	9,343km 頸南消防署 （平成25年11月配備）	17,703km 東頸消防署 （平成27年10月配備）
平均走行距離	88,496km 消防ポンプ自動車13台 （平均経過年数12年）	128,446km 高規格救急自動車11台 （平均経過年数5年）



【ヒメジソ】シソ科の一年草。同じシソ科のイヌコウジュと間違えやすいですが、こちらは葉のギザギザが5、6か所と少ないのが特徴です。花は白色または淡い紅紫色です。写真は吉川区にて撮影しました。

す。ただ、この車は本年11月に更新予定だといふことです。定例議会では、私が消防、救急車両の走行距離がどうなっているかについて質問。台数の多い消防ポンプ自動車、高規格救急自動車について、走行距離の一番長いもの、一番短いもの、平均の資料を求めていました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1778 2016.10.16

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第四二六回 風呂場のイス

一つの器具が老いていく人間の助けになる。介護、福祉の分野ではどこでも見られることですが、実際に自分の家で使うようになって見ると、なかにはしゃれたものもあつたりして、「いいもんだなあ」と感心してしまいます。

ひと月ほど前、わが家の風呂場に入ってびっくりしました。洗い場のところにオレンジ色の、かっこいいイスが置いてあつたからです。言うまでもなく、九二歳の母のために用意した入浴時のイスです。

イスはアルミ製、軽くて片手で簡単に動かすことができます。いつも私が体を洗う場所に置いてあつたものですから、お風呂の入り口側に引きました。オレンジ色と書きましたが、座る場所と背もたれがこの色で目立ちます。残りの部分は銀色と言つたらいいのでしょうか、アルミのパイプの色となっています。

風呂場にオレンジ色のイスが置かれ、しばらく経つてから、母に「なじよだね、風呂のイスは」と訊(き)きました。母は「足、洗つたりするにいいよ。それに、あがるときには体もふかれるし……」と答えました。さらに「ケツはどうしてるが」と訊くと、「そりゃ、立って洗つてるよ」と言います。

母はいつも私の前に風呂場に入ります。風呂には、ちゃちゃっと入って出てくる母ですが、母のしゃべっている言葉で、どんなふうにして体を洗っているかはだいたい想像できます。ていねいに体の隅から隅までゴシゴシやることはなく、体の前と後ろを洗つた後、イスに座つて前かがみになり、タオルで手足を洗い、背中をさつと洗つて、「はい、終わり」といった感じです。

お風呂の話をしているとき、母はふと何かを思い出したようです。「とちや、おまんに話したつけなあ。この間、おらちにコメ持つて来たおとちや、教えてくんかったがど、東んち、壊していなかつた……」

東というのは屋号でわが家の親戚の家です。叔父が亡くなってから、叔母も引越して、空き家になっていました。

わが家が尾神岳のふもとにあつたころ、東の家はわが家のすぐ近くにあつたものですから、毎日のように行き来してました。歩いて行く場合は、わが家の小さな「たね(池)の脇から道に出て、急な細いところを上がると、そこがもう東の家でした。私の記憶にはほとんど残っていませんが、水が十分あつたわけではないので、互いに「もらい風呂」をしていたようです。母は、そのことを思い出したのかも知れません。

ところで、わが家の風呂場に介護の器具が入つたのは今回が初めてではありません。いまから一〇年ほど前、頑丈な体の持ち主だった父の体力が衰え、歩くにも人の手を借りなければならなくなつたころ、玄関には手すりを設置され、風呂場には浴槽の中に入れておく台が入りました。これは浴槽に入るときは足場になりましたし、風呂に入つてからは腰かける台にもなりました。

その父が亡くなってから七年経ちました。父よりも三つ年上の母が今度は介護の器具の世話になるときがやってきました。ただ、父が病院に入る前に比べれば、いまの母の姿はまだまだ「たつしや」です。

風呂場のイスに助けられながらも、九二歳になって、自分ひとりで風呂に入り、体を洗つて出てくるとはありがたいですね。今夜も、母が風呂から出て、私に声をかけてくれました。「とちや、風呂あいたよ」と。

花ロード、100キロマラソン、それに...

10月9日はたいへん忙しい一日となりました。新潟県の政治戦の仕事がある中で、少し時間をもらって城下町高田の花ロードを見たり、えちご・くびき野100キロマラソンの応援に出たりしました。

まずは「ひぐちキミヨ個展」へ。ずらっと並んだ絵葉書のなかから最初に選んだのは、小さな子どもが高田の瞽女さんにさよならしている葉書です。瞽女さんを見送る子どもの切ない気持ちが伝わってきます。

かせていました。同級生のF子さんとも会うことができました。屋上からはえちご・くびき野100キロマラソンのランナーが見えました。



100キロマラソンの応援は主に吉川区総合事務所前のレストステーションで行いました。小雨が降って寒い中でしたが、選手やボランティアのみなさんががんばっていました。特に吉川中学校の生徒のみなさんの、元気で、きびきびした動きが印象に残りました。毎回、好評の尾神そば、うどんは今回も喜ばれました。私も1杯いただきました。

スタッフの皆さんの話によると、この日は天気動きが激しく、雨が降ったことから、いつもよりも棄権者が多かったということでした。



つづいて、坂井亮円さんの織物の作品。この人の作品は、これまでの作品がどんどん大きくなって、とても存在感のあるものになりました。もう5年も経つと、作品が部屋の中で踊り出すのではないのでしょうか。

最後は、本町5丁目の内山さん宅の屋上花ガーデンを訪ねました。400種からある花の中でシラバナサクラタデとキバナアキギリ(写真右上)が見事に花を咲

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月5日(水)	10月12日(水)
上越南消防署	0.040	0.043
上越北消防署	0.050	0.057
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.043	0.053
頸南消防署	0.053	0.053
東頸消防署	0.047	0.060
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.053	0.050